



日産化学株式会社

2022年3月期 第1四半期決算説明電話会議

説明者

取締役副社長 CFO 宮崎純一

2021年8月10日

会計方針の変更(一部5月より数値変更あり)

1.方針の変更: 「収益認識に関する会計基準(企業会計基準29号)」を適用

2.適用時期: 2021年4月1日より

3.方針変更に伴うPL、BSへの主な影響:

(1) 代理人取引

(主たる適用セグメント) 化学品、農業化学品、卸売

(適用後) 売上総利益額見合の売上高のみ表示(適用前は売上高、売上原価を総額で表示)

(2021年度予想PLへの想定影響額)

売上高、売上原価がそれぞれ446億円(5月時点予想、本体23億円、卸売423億円)減少

各セグメントの売上高には影響させず、「調整額」で控除

(2) 売上高を基礎としたロイヤリティ収入

(主たる適用セグメント) 農業化学品(動物薬ロイヤリティ収入)

(適用前)(2020年度まで) MSD社*1-6月売上高見合を8月、7-12月売上高見合を翌年2月、に計上

(適用後)(2021年度より) MSD社*1-3月売上高見合を5月、4-6月売上高見合を8月、7-9月売上高見合を11月、

10-12月売上高見合を翌年2月、に計上 *MSD:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門の
MSD Animal Health 社の略称

(3) 変動対価(販売時点では変動する可能性のある売上値引など)

(主たる適用セグメント) 農業化学品

(適用後) 売上期間に応じて見積もり計上(適用前は金額確定時に計上)

適用前に比べ、値引額は1Q増加(マイナス影響)、2Q減少、上期増加、下期減少、年間なし、の傾向

(2021年度BSへの想定影響額)

2021年度期首利益剰余金(BS項目)が2020年度の遡及修正で15億円減少(税効果反映後)

(適用前)(2020年度) 2019農年(2019年10月-2020年9月)の売上見合い値引きのみ計上

(適用後)(2020年度) 上記に加え、2020年10月-2021年3月の売上見合い値引き15億円追加計上

2

宮崎: 副社長の宮崎です。よろしくお願ひいたします。

それでは、資料の2ページをご覧ください。会計方針の変更でございますけども、このページは5月に説明いたしました点の確認のためのページでございます。

主要な変更点は3点ございます。(1)にございますとおり、まず代理人取引に基づきます調整額の控除。(2)にございます、フルララネルのロイヤリティに関する収入の四半期ごとの計上。第3点は、変動対価ということで、主として農業化学品におきまして値引き額を四半期別に的確に計上すると、この3点でございます。

2021 1Q決算 ハイライト

1. 前年同期比

- ◆ **営業利益は、前年同期98億円に対し、119億円と21億円の増益(+21%)**
 - －化学品は、メラミン・テピック・環境化学品の増収が大きく、増益
 - －機能性材料は、ディスプレイ・半導体・無機の好調により増益
 - －農業化学品は、減収(会計基準変更によるフルラネルのロイヤリティ計上で増収と農業値引コスト増で減収、グレーシア・アルテア等減収)となったものの、在庫変動影響(プラス要因)により増益
 - －医薬品は、リバロ・ファインテックともに減収により減益
- ◆ **純利益は、前年同期76億円に対し、88億円と12億円の増益(+16%)**
- ◆ **営業利益、経常利益、当期純利益は2018年1Q以来の過去最高益を更新**

2. 業績予想(2021年5月発表、p4、p10、p30)比

- ◆ **営業利益は、業績予想98億円に対し、119億円と21億円の上ぶれ**
 - －化学品は、利益予想通り
 - －機能性材料は、ディスプレイ・半導体・無機の好調により、利益上ぶれ
 - －農業化学品は、売上高下ぶれ(フルラネルは上ぶれ、ラウンドアップ・グレーシア・アルテア等が下ぶれ)も、固定費の下ぶれ、在庫変動影響(プラス要因)により、利益上ぶれ
 - －医薬品は、リバロ国内好調により、利益上ぶれ
- ◆ **純利益は、業績予想75億円に対し、88億円と13億円の上ぶれ**

3. 業績予想は修正なし

- ◆ **2Q及び通期の業績予想は、2021年5月14日発表より変更なし**

4. 自己株式取得完了(70億円、1,262千株、取得期間:5月17日～7月21日)

3

続きまして、3 ページにまいります。1Q の決算のハイライトということで、まず前年同期比でございます。赤字にしておりますとおり、営業利益につきましては、前年同期 98 億円に対しまして、実績が 119 億円と、21 億円、21%の増益を達成しました。

ここで少しこの数字につきまして、所感を述べさせていただきます。当社の年間営業利益は、過去 7 年連続最高益を更新してまいりました。その上での今回の四半期利益の増益であり、単に 3 カ月間の成績ではなく、長年培ってきた強靱な体力に裏打ちされた事業創出の賜と自己評価をしております。

それでは、資料に戻ります。先ほどの、今の営業利益のところでございますけども。各セグメントで見ますと、医薬品を除きまして化学品、機能性、農業化学品、いずれも増益となりました。

続いて、純利益でございますが、前年同期 76 億円に対しまして 88 億円と、12 億円の増益、16%の増加でございます。

営業利益、経常利益、当期純利益は、2018 年度の 1Q 以来の過去最高益の更新となりました。

続きまして、2番ですが、業績予想比でございます。営業利益は、もともとの予想98億円に対しまして119億円と、21億円の伸びでございます。化学品は予想どおりの仕上がりでしたが、それ以外のセグメント、機能性、農業化学品、医薬品は、いずれも利益は伸びとなりました。

純利益の業績予想は75億円でしたので、88億円と、13億円の伸びでございます。

3番目、業績予想でございますが、今回は1Qでございますので、修正はございません。上期および通期の予想につきましては、5月14日の発表のとおりでございます。

最後に、自己株式の取得を完了しております。70億円、126万2,000株、7月21日に取得を終了してございます。

2021 1Q実績⁽¹⁾

	2020実績	2021実績	増減	2021予想 (2021/5発表)
	1Q	1Q	1Q	1Q
売上高	493	465	-28	400
営業利益	98	119	+21	98
営業外損益	6	4	-2	4
経常利益	104	123	+19	102
特別損益	0	0	0	0
純利益 (2)	76	88	+12	75
EBITDA (3)	121	142	+21	-
EPS (円/株)	52.38	61.73	+9.35	-
売上高営業利益率	19.9%	25.5%	+5.6%	24.5%
為替レート(円/ドル)	108	110		107
原油(JCC)(ドル/bbl) (4)	31	67		55

(1) 2021実績・予想は会計方針の変更影響を含む(p2参照)

(2) 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

(3) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 (4) 実績は財務省貿易統計ベース

4 ページは、1Q の実績の数値でございます。

2021 1Q実績

<前年同期比>

(売上高)	◆減収	-28 億円	(-6%)	(増収)	化学、機能性材料
(うち会計方針の変更による売上高減少-35億円)				(減収)	農業化学、医薬、卸売
(営業利益)	◆増益	+21 億円	(+21%)	(増益)	化学、機能性材料、農業化学
(うち会計方針の変更による営業利益増加+12億円 :フルララネルロイヤリティ収入増・農薬売上値引コスト増の合計)				(横ばい)	卸売
(経常利益)	◆増益	+19 億円	(+18%)	(減益)	医薬
(純利益)	◆増益	+12 億円	(+16%)		
(EPS)	◆増加	+9.35 円	(+18%)		

営業利益、経常利益、純利益は2018年1Q以来の過去最高益を更新

<2021/5業績予想比>

(売上高)	◆上ぶれ	+65 億円	(上ぶれ)	化学、機能性材料、医薬、卸売
(うち会計方針の変更による売上高上ぶれ(代理人取引影響額)は55億円)			(下ぶれ)	農業化学
(営業利益)	◆上ぶれ	+21 億円	(上ぶれ)	機能性材料、農業化学、医薬、卸売
			(予想通り)	化学
(経常利益)	◆上ぶれ	+21 億円		
(純利益)	◆上ぶれ	+13 億円		

5

続きまして、5 ページにまいります。前年同期比でございますけれども、売上高につきましては 28 億円の減収となりました。このうち、会計方針の変更に伴いまして、売上高の減少が 35 億円含まれております。営業利益につきましては 21 億円の増益ですが、このうち会計方針の変更によります増加が 12 億円含まれてございます。

これは内訳としますと、フルララネルのロイヤリティの収入増に伴う利益の増加、それと農薬の売上値引コストの増加によります利益の減少、このプラスマイナスの合計値でございます。

EPS につきましては 9.35 円増えてございます。

続いて、その下、21 年 5 月の業績予想比ですが、売上高は 65 億円の上ぶれとなっております。ただし、このうち 55 億円につきましては、ここに書きましたとおり、会計方針の変更に伴います売上高の消去の額が少なかったということでありまして、これによって 55 億円売上が上ぶれております。

営業外損益・特別損益

			(億円)
	2020実績	2021実績	2021予想 (2021/5作成)
	1Q	1Q	1Q
営業外収益	8.4	6.3	5.7
受取利息・配当金	3.1	2.7	2.5
持分法投資損益 他	5.3	3.6	3.2
営業外費用	2.3	1.9	2.0
支払利息	0.3	0.3	0.3
固定資産処分損 他	2.0	1.6	1.7
営業外損益	6.1	4.4	3.7
特別利益	0.0	0.0	0.0
特別損失	0.0	0.0	0.0
特別損益	0.0	0.0	0.0

6

6 ページにまいります。営業外損益・特別損益、ここでは特にございませぬ。この1Qの特別利益・特別損益はございませぬ。

キャッシュフロー

(億円)

	2020実績	2021実績
	1Q	1Q
営業キャッシュ・フロー	124	118
税金等調整前純利益	104	123
投資有価証券売却損益(－は益)	0	0
減価償却費(1)	23	22
法人税等の支払	-60	-71
運転資金増減他	57	44
投資キャッシュ・フロー	-15	-33
設備投資	-20	-28
投資有価証券購入・売却	-1	-1
その他	6	-4
財務キャッシュ・フロー	-249	-238
株主還元(配当)	-70	-83
株主還元(自己株取得)	-41	-48
借入金増減額	-109	-84
その他	-29	-23
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額	-140	-153
現金及び現金同等物の残高	166	171

(1) のれん償却費を含む

7

続きまして、7 ページ、キャッシュフローでございます。

引き続き潤沢なキャッシュフローということですが、1Q につきましては、配当の支払と、それから自己株式の取得がございました。

この表の財務キャッシュフローのところの自己株取得につきましては、株主還元ということで、48 億円ここに含まれておりますが、これは実際に使ったこの金額ということで、70 億円の枠のうち、残りの 22 億円につきましては、この 2 行下のその他、この中に含まれております。

昨年も同様でして、70 億円自己株取得を昨年の 1Q に決議しておりますけども、41 億円が実行済み、残りの 29 億円はその他のところに含まれてございます。

現預金の残高につきましては、この最後の行ですが、前年同期は 166 億円、今期は 171 億円という結果でございました。

貸借対照表

	2020/6	2021/3 (A)	2021/6 (B)	増減 (B) - (A)
流動資産	1,346	1,596	1,422	-174
現金預金	166	324	171	-153
売上債権	630	739	664	-75
たな卸資産	466	467	498	+31
その他	84	66	89	+23
固定資産	975	1,059	1,044	-15
有形固定資産	508	518	515	-3
無形固定資産	72	121	122	+1
投資有価証券*	346	359	349	-10
その他	49	61	58	-3
資産合計	2,321	2,655	2,466	-189
*投資有価証券内訳				
上場株式	241	244	231	-13
非上場株式	27	27	28	+1
関係会社株式	78	88	90	+2
合計	346	359	349	-10

	2020/6	2021/3 (A)	2021/6 (B)	増減 (B) - (A)
負債	475	649	527	-122
買入債務	158	163	157	-6
借入金	137	227	142	-85
その他	180	259	228	-31
純資産	1,846	2,006	1,939	-67
株主資本	1,736	1,869	1,811	-58
その他有価証券 評価差額金	102	114	105	-9
為替換算 調整勘定	-8	1	1	0
非支配株主持分	16	17	18	+1
退職給付に係る 調整累計額	0	5	4	-1
負債・純資産 合計	2,321	2,655	2,466	-189

・自己資本比率	78.8%	74.9%	77.9%
・D/Eレシオ (1)	-1.7%	-5.2%	-1.6%
・株主資本増減-58 = 純利益88 - 配当その他146			
(1) D/Eレシオ = (借入金 - 現金預金) / 株主資本			

8

続きまして、バランスシート、8 ページをご覧ください。当社の場合は農薬の売上が3月、4月がピークということですので、そこから4月以降、回収に入ってくるということでもあります。従って、売上債権については21年3月、739億円をピークにここから減ってくる状況ですので、昨年の6月が売上債権630億円、今期が664億円という姿でございました。

現金預金につきましては、配当と、それから自己株取得がございますので、借入金の返済も含めまして、3月比では153億円の減少となっております。この間、自己資本比率ですが、この表の欄外ですが、77.9%という数字となっております。

投資有価証券のところ、この1Qについては、上場株式の売却はございませんでしたが、金額が下がっておりますのは、評価額が下がったということでございます。

2020-21 1Q セグメント別売上高(1)(2)(3)

(億円)

	2020実績					2021実績		2021予想 (2021/5発表)				
	1Q (A)	2Q	3Q	4Q	計	1Q (B)	増減 (B) - (A)	1Q	2Q	上	下	計
化学	74	73	83	89	319	88	+14	84	83	167	179	346
ファイン	27	27	28	32	114	32	+5	32	31	63	66	129
基礎	47	46	55	57	205	56	+9	52	52	104	113	217
機能性	171	175	192	178	716	200	+29	186	186	372	386	758
農業化学	146	111	63	318	638	134	-12	145	103	248	414	662
医薬	15	15	14	23	67	11	-4	9	20	29	32	61
創薬	7	8	6	8	29	6	-1	5	5	10	11	21
FT	8	7	8	15	38	4	-3	4	15	19	20	39
卸売	182	155	178	183	698	178	-4	165	170	335	366	701
その他	48	46	68	76	238	49	+1	49	54	103	131	234
調整額	-143	-123	-161	-158	-585	-195	-52	-238	-251	-489	-548	-1,037
合計	493	452	437	709	2,091	465	-28	400	365	765	960	1,725

- (1) セグメント間の内部売上高又は振替高を含む
(2) 医薬品セグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある
(3) 2021実績・予想は会計方針の変更影響を含む(p2、5、30参照)
(1Q実績)
(前年同期比) 会計方針変更による売上高減少-35億円
(業績予想比) 会計方針変更による売上高上ぶれ(代理人取引影響額)+55億円

9

続きまして、9ページをご覧ください。セグメント別の売上高、2020年度から2021年度の1Qまでという数字が出ております。

2020-21 1Q セグメント別営業利益⁽¹⁾⁽²⁾

(億円)

	2020実績					2021実績		2021予想 (2021/5発表)				
	1Q (A)	2Q	3Q	4Q	計	1Q (B)	増減 (B) - (A)	1Q	2Q	上	下	計
化学	7	-8	7	9	15	13	+6	13	-3	10	14	24
機能性	53	54	63	54	224	70	+17	55	61	116	122	238
農業化学	40	38	-13	117	182	41	+1	38	20	58	118	176
医薬	-1	1	0	4	4	-2	-1	-3	5	2	1	3
創薬	-2	-1	-4	-2	-9	-3	-1	-4	-3	-7	-8	-15
FT	2	2	3	6	13	1	-1	1	8	9	9	18
卸売	7	5	7	6	25	7	0	5	6	11	11	22
その他	0	0	4	4	8	1	+1	0	0	0	7	7
調整額	-8	-8	-12	-5	-33	-11	-3	-10	-10	-20	-14	-34
合計	98	82	56	189	425	119	+21	98	79	177	259	436

(1) 医薬品セグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

(2) 2021実績・予想は会計方針の変更影響を含む(p2、5、30参照)

(1Q実績)

(前年同期比) 会計方針変更による営業利益増加+12億円

10

続いて、10 ページ、セグメント別の営業利益です。

21 年度の実績の、増減 (B) - (A) をご覧ください。全体では 21 億円の増加ですが、セグメント別には化学品でプラス 6 億円、機能性でプラス 17 億円、農業化学品でプラス 1 億円、医薬品でマイナス 1 億円という結果でございました。

これと 5 月に発表しました 1Q の数字を比べてみますと、そのすぐ右の列ですが、化学品につきましては 13 億円でしたので、予想どおりの着地でございました。機能性は 55 億円の予想に対して 70 億円の着地。農業化学品は 38 億円の予想に対して 41 億円の着地です。医薬品はマイナス 3 億円の予想に対してマイナス 2 億円。全体では 98 億円の予想でしたので、21 億円の上げれという結果でございました。

化学品セグメント概況 – (C) メラミン生産停止による化学品事業の構造改革 (2021年8月10日プレスリリース発表)

1. 当社の化学品事業構成(p12参照)

グループ	主要製品
アンモニア系製品	アンモニア、尿素・アドブルー、高純度液安、メラミン、硝酸、シアヌル酸、ハイライト、テビック、メラミンシアヌレート
硫酸系製品	硫酸、精製硫酸、高純度硫酸
その他製品	ファインオキシコール等

2. 売上高・営業利益状況

	2018-20年度合計 構成 (億円)		
	売上高	営業利益	
アンモニア系製品	674 (66%)	7 (12%)	→ アンモニア系製品中、メラミンが売上高最大も赤字、メラミン以外のアンモニア系製品合計利益は黒字
硫酸系製品	345 (34%)	51 (88%)	
その他製品			
化学品セグメント合計	1,019(100%)	58(100%)	

3. メラミンの現状と展望

下記要因から、中長期的に安定的な利益を確保することは困難、新規投資による利益拡大も望めない

- ◆世界の生産能力は、需要の2倍(当社推定)
- ◆国内の生産能力(当社含め2社)は、需要の3倍(当社推定)
- ◆価格は、足元回復基調だが、安値中国品(生産能力は世界の約7割を占める)の動向に大きく左右され、不安定

4. 対応策

- (1) 2022年6月 メラミン生産停止、在庫消滅時点で販売終了
- (2) 高付加価値、高シェア製品への資源集中等による拡販
- (3) メラミン操業員は、富山工場内で配置転換

5. 対応策の業績への影響試算

- (1) メラミン関連諸費用は算定中なるも投資有価証券売却益で対応予定で影響は軽微。尚、5月14日発表の業績予想には織り込んでいない
- (2) 2023年度 化学品セグメント概算損益イメージ

	2023年度 概算損益イメージ (億円)		
	2021年度 予想	2023年度と2021年度予想の差異 メラミン停止影響と対応策効果	2023年度 概算予想
売上高	346	+16	362
営業利益	24	+10	34

6. ESG

メラミン停止によるCO2削減量試算: -26千トン… 2018年度実績の約7%に相当(p29参照)

13

続いて、各セグメントの状況のご説明に入ります。

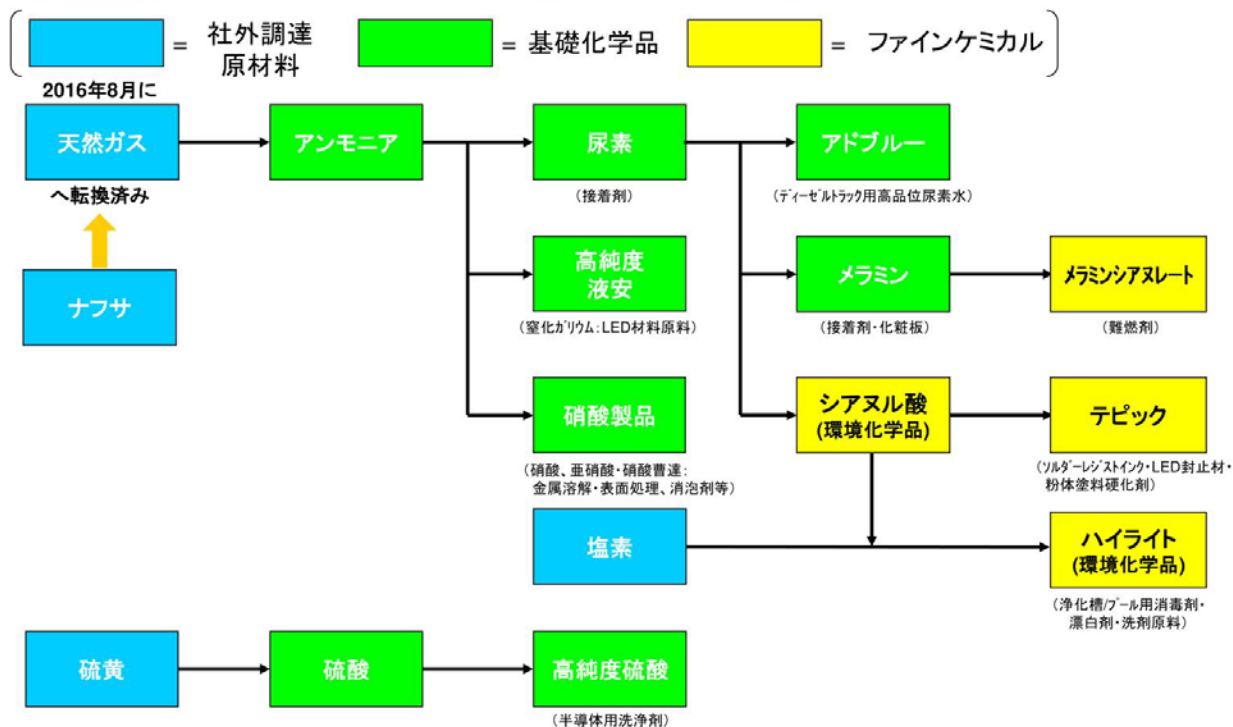
まず、化学品セグメントでございますけども、ここでは13ページの、本日プレスリリースいたしましたメラミンの生産停止に伴います化学品事業の構造改革、ここからご説明をしたいと思っております。

まず1番、当社の化学品事業構成です。対外開示しておりますのは、基礎化学品とファインケミカルで分けておりますが、生産の流れ、マテリアルフローでいきますと、ここにございますとおり、アンモニア系、硫酸系、その他といったグルーピングになります。

化学品セグメント概況 – (B) 主要製品製造フロー

◆ 化学品主要製品 : アンモニア系製品と硫酸系製品

◆ 2020年度アンモニア国内生産能力シェア11%、高い自消率による付加価値向上



12

これについては、12 ページのマテリアルフローの図をご覧ください。アンモニア系製品に含まれますのは、アンモニア、尿素・アドブルー、高純度液安、メラミン、硝酸、シアヌル酸、ハイライト、テピック、メラミンシアヌレート等々ということになります。

それぞれの細かい製品用途につきましては、後ろのほうに、47 ページにまとめてございますので、後ほどご覧ください。

硫酸系の製品につきましては、硫酸、それから精製硫酸、高純度硫酸と、こういったようなものがございます。その他の製品につきましては、ファインオキシコールがございます。

化学品セグメント概況 – (C) メラミン生産停止による化学品事業の構造改革 (2021年8月10日プレスリリース発表)

1. 当社の化学品事業構成(p12参照)

グループ	主要製品
アンモニア系製品	アンモニア、尿素・アドブルー、高純度液安、メラミン、硝酸、シアヌル酸、ハイライト、テビック、メラミンシアヌレート
硫酸系製品	硫酸、精製硫酸、高純度硫酸
その他製品	ファインオキシコール等

2. 売上高・営業利益状況

	2018-20年度合計 構成 (億円)	
	売上高	営業利益
アンモニア系製品	674 (66%)	7 (12%)
硫酸系製品	345 (34%)	51 (88%)
その他製品		
化学品セグメント合計	1,019(100%)	58(100%)

→ アンモニア系製品中、メラミンが売上高最大も赤字、メラミン以外のアンモニア系製品合計利益は黒字

3. メラミンの現状と展望

下記要因から、中長期的に安定的な利益を確保することは困難、新規投資による利益拡大も望めない

- ◆世界の生産能力は、需要の2倍(当社推定)
- ◆国内の生産能力(当社含め2社)は、需要の3倍(当社推定)
- ◆価格は、足元回復基調だが、安値中国品(生産能力は世界の約7割を占める)の動向に大きく左右され、不安定

4. 対応策

- (1) 2022年6月 メラミン生産停止、在庫消滅時点で販売終了
- (2) 高付加価値、高シェア製品への資源集中等による拡販
- (3) メラミン操業員は、富山工場内で配置転換

5. 対応策の業績への影響試算

- (1) メラミン関連諸費用は算定中なるも投資有価証券売却益で対応予定で影響は軽微。尚、5月14日発表の業績予想には織り込んでいない
- (2) 2023年度 化学品セグメント概算損益イメージ

	2023年度 (億円)		
	2021年度 予想	2023年度と2021年度 予想の差異 メラミン停止影響と対応策効果	2023年度 概算予想
売上高	346	+16	362
営業利益	24	+10	34

6. ESG

メラミン停止によるCO2削減量試算: -26千トン… 2018年度実績の約7%に相当(p29参照)

13

この化学品事業部の売上高、営業利益の状況を3年合計の数字で見たのが、13ページの2番でございます。売上について見ますと、アンモニア系製品が約66%、硫酸系とその他が34%という構成でございましたが、利益について見ますと、アンモニア系は12%、硫酸系とその他の製品が88%という構成となっております。

こういったアンバランスな理由ですが、その右側、矢印がございますとおり、アンモニア系の製品の中ではメラミンが最大の売上でございましたが、それ自体は赤字という状況でございました。メラミン以外のアンモニア系製品につきましては、合計の利益は黒字となっております。従って、メラミンによりまして、アンモニア系製品の利益が下げられている状況でございます。

続いて3番、メラミンの現状と展望というところでございますけども。以下の3点から中長期的にこの製品において安定的な利益を確保することは困難、そして新規投資によっても利益の拡大は望めないという判断をしております。

なぜならば、世界の生産能力は今、需要の2倍ございます。加えて、国内の生産能力、当社ともう1社のみでございますが、こちらも需要の3倍ございます。価格について見ますと、足元につきましては回復基調にございますけども、基本的に安値の中国品、これが世界の能力の7割を占めてお

りますが、こちらの動向に非常に大きく左右され、不安定な状況はずっと変わらないと見られるわけでございます。

続いて4番、対応策でございますけれども、まず、22年の6月にメラミンの生産を永久に停止いたします。そして、在庫消滅の時点で販売を終了いたします。

(2) 化学品の中では、減った分につきましては、化学品事業部の中での高付加価値品、高シェア品への資源の集中投入によりまして拡販を行います。

(3) ですが、メラミンに関わります操業員につきましては、富山工場内での配置転換をいたします。

5番目、対応策の業績への影響の試算でございますが、まず(1)、メラミンの関連諸費用、除却・撤去費用というものがかかってくるわけですが、これについて今、まだ算定中でございますが、最終的には投資有価証券の売却益で対応する予定でして、ネットの影響は軽微と見ております。なお、このメラミン生産停止に伴います影響については、5月発表の業績予想には織り込んでございません。

(2)、そのメラミン生産停止後の化学品セグメントの利益の概算のイメージであります。2021年度の売上346億円、24億円の営業利益という予想に対しまして、23年度においては、これはメラミン停止後の初年度になりますが、362億円の売上で利益は34億円を見込んでおります。

最後に、ESG影響であります。これはポジティブな影響でございます。メラミンの停止によりましてCO₂の削減量は約2万6,000トンと試算されております。これは2018年度の実績、36万3,000トンの約7%に相当します。当社は2030年度までに2018年度のCO₂の排出量を30%削減するという長期目標を立てて公表しておりますが、この7%がここから出てくるという計算となります。

化学品セグメント概況 – (D) 2021 1Q 主要製品売上高成長率、収益動向

<主要製品売上高成長率>

	2021 1Q実績	
	前年同期比	計画比 (21/5作成、非開示)
テピック	+29%	上ぶれ
環境化学品	+23%	下ぶれ
ファイン合計	+18%	予想通り
メラミン	+68%	上ぶれ
尿素・アドブルー	+14%	予想通り
高純度硫酸	+10%	予想通り
硝酸製品	+20%	上ぶれ
基礎化学品合計	+20%	上ぶれ

左記2製品グループの
2021年1Q実績ファインケミカル
売上高に占める割合: 77%

左記4製品グループの
2021年1Q実績基礎化学品
売上高に占める割合: 56%

<化学品収益動向>

	2020実績			2021実績		増減 (B) - (A)	2021予想 (21/5発表)
	(A)	(B)	(B) - (A)				
	1Q	1Q	1Q				
売上高	74	88	+14		84		
ファイン	27	32	+5		32		
基礎	47	56	+9		52		
営業利益	7	13	+6		13		

2021 1Q実績

<前年同期比>

- (ファイン) ◆ 増収: テピック一般(輸出回復)・電材(車載向け回復)、
環境(シアヌル酸能力増強)
◆ 売上高増加、営業利益増加
- (基礎) ◆ 増収: メラミン輸出・国内(需要回復)、
硝酸製品(需要回復)、
尿素・アドブルー(需要回復)、
高純度硫酸(半導体向け好調)
◆ 売上高増加、営業利益増加
- (合計) ◆ 売上高+14億円、営業利益+6億円

2021 1Q実績

<2021/5業績予想比>

- (ファイン) ◆ 売上高上ぶれ: テピック一般
売上高下ぶれ: テピック電材、環境
◆ 売上高予想通り、営業利益下ぶれ
- (基礎) ◆ 売上高上ぶれ: メラミン輸出、硝酸製品
売上高予想通り: 高純度硫酸、尿素・アドブルー
売上高下ぶれ: メラミン国内
◆ 売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ
- (合計) ◆ 売上高+4億円、営業利益予想通り

14

続きまして、化学品セグメントの概況です。14 ページをご覧ください。

左側に主要製品の表がございます。ご覧のとおり、前年同期比増収ということが大半の製品でございまして、特に環境化学品を除いては、業績予想比でも上ぶれないし予想どおりの数字を上げてきております。ファインでは、前年比プラス 18%の増収、基礎化学品はプラス 20%でございます。

その下、前年同期比の売上、利益の状況ですが、ファインにつきましてはテピックの一般が輸出の回復で増収。電材も車載向けが回復をしております。環境もシアヌル酸の能力増強もあり、増収です。従って、増収増益がファインでございました。

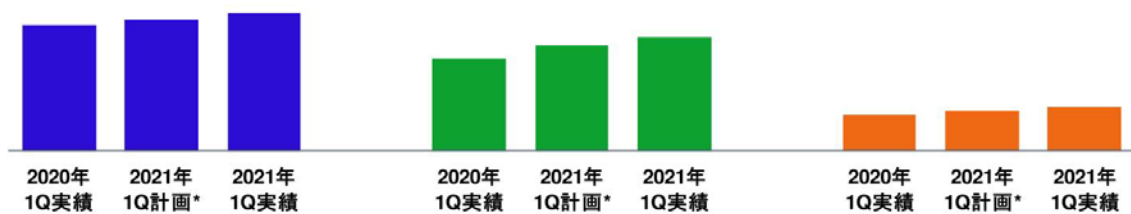
続いて、基礎でありますけれども、こちらもメラミンの輸出、それから国内、いずれも需要の回復。輸出につきましては価格も回復をしております。硝酸製品、尿素・アドブルー、高純度硫酸、いずれも需要の回復がございました。従って、基礎も増収増益という結果でして、合計で見ますと売上で 14 億円の増、利益で 6 億円の増でございました。

14 ページ右側の業績予想比でございますが、ファインにつきましては、テピック一般は上ぶれとなりましたが、テピックの電材、こちらは車載用のプリントサーキットボード向けが、お客様の半導体不足で下ぶれております。環境につきましては、国内のプール需要の下ぶれで、下ぶれでござ

いました。ファインにつきましては、売上はほぼ予想どおりでしたが、営業利益は若干の下ぶれでございました。

一方、基礎ですが、売上の上ぶれがメラミンの輸出、硝酸製品。ほぼ予想どおりであったのが、高純度硫酸、尿素・アドブルー。売上の下ぶれは、メラミンの国内、住宅需要が予想よりも下ぶれたということです。基礎全体としますと、売上の上ぶれ、営業利益の小幅の上ぶれでして、合計しますと、売上はプラス4億円、営業利益は全体で予想どおりの着地でございました。

機能性材料セグメント概況 – (B) 2021 1Q 売上高構成



*21/5作成、非開示

< ディスプレイ材料 >

サンエパー：液晶配向材用ポリイミド

< 半導体材料 >

ARC®：半導体用反射防止コーティング材
 多層材料：半導体用多層プロセス材料 (OptiStack®)
 その他
 新材料：EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材等

< 無機コロイド >

スノーテックス：研磨材(シリコンウェハー、化合物半導体、半導体CMP等) 特殊鋼板
 オルガノゾル・モノマーゾル：電子機器用フィルム表面処理、樹脂添加剤
 オイル&ガス材料：シェールオイル・ガス探掘効率向上材

続いて、機能性材料にまいります。16 ページをご覧ください。機能性材料の3つのサブセグメント、ディスプレイ、半導体、無機コロイドの1Qの棒グラフがございます。

機能性材料セグメント概況 – (C) 2021 1Q 主要製品売上高成長率

主要製品	2021 1Q実績	
	前年同期比	計画比 (21/5作成、非開示)
サンエバー合計	+9%	上ぶれ
ディスプレイ材料合計	+10%	上ぶれ
KrF (ARC®)	+12%	上ぶれ
ArF (ARC®)	+22%	上ぶれ
ARC® 小計	+19%	上ぶれ
その他半導体材料合計 (1)	+37%	上ぶれ
半導体材料合計	+24%	上ぶれ

主要製品	2021 1Q実績	
	前年同期比	計画比 (21/5作成、非開示)
スノーテックス	+16%	上ぶれ
オルガノゾル・モノマーゾル	+26%	上ぶれ
オイル&ガス材料	1,600%以上	下ぶれ
無機コロイド合計	+25%	上ぶれ

(1) 多層材料 (OptiStack®)、EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材等

17

続いて、17 ページをご覧ください。機能性材料セグメントの主要製品の動向でございます。

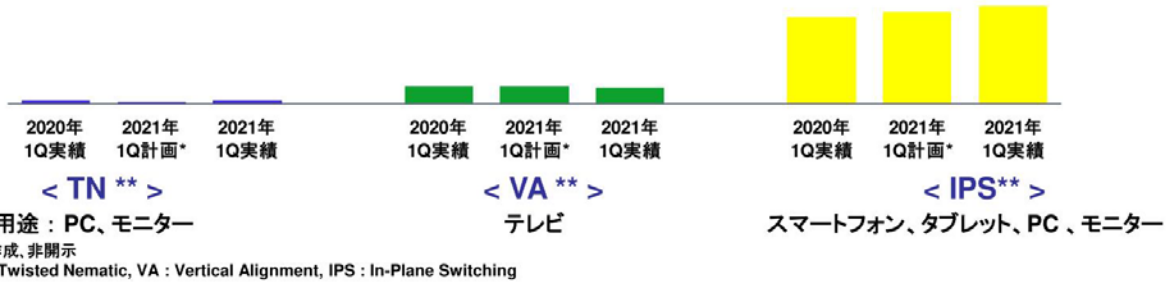
まず、サンエバーは、前年同期比プラス 9%でございます。これは計画比上ぶれの数字でございます。

半導体材料、ARC ではプラス 19%、その他がプラス 37%、全体ではプラス 24%ということで、これも上ぶれでございました。

続いて、無機コロイドであります。スノーテックス、オルガノゾル・モノマーゾル、こちらは増収で、これも上ぶれの数字です。無機コロイド全体もプラス 25%で、こちらも上ぶれでございました。

機能性材料セグメント概況 – (D) 2021 1Q サンエバー モード別売上高

<モード別売上高構成>



<モード別前年同期比売上高成長率>

	2021 1Q実績		前年同期比売上高増減
	前年同期比	計画比 (21/5作成、非開示)	
TN	↘	上ぶれ	+10~+19% ↗↗
VA	↘	下ぶれ	+0~+9% ↗
IPS	↗↗	上ぶれ	-0~-9% ↘
サンエバー計	+9%	上ぶれ	-10~-19% ↘↘

18

続いて、サンエバーの状況です。18 ページをご覧ください。

TN につきましては、前年同期比、若干のマイナス。VA も同様に小幅のマイナス。ラビングと光を合わせた IPS は、大幅な増収ということでありました。

このうち、TN と IPS につきましては上ぶれておりますが、VA は若干の下ぶれでございました。全体では上ぶれでございます。

機能性材料セグメント概況 – (E) 2021 1Q 収益動向

<機能性材料収益動向>

	(億円)			
	2020実績 (A)	2021実績 (B)	増減 (B) - (A)	2021予想 (21/5発表)
	1Q	1Q	1Q	1Q
売上高	171	200	+29	186
営業利益	53	70	+17	55

半導体その他新材料: EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材合計

2021 1Q実績 <前年同期比>

- ◆ DP増収、増益
光IPS増収(スマホ、非スマホ好調)、ラビングIPS減収、VA減収、TN減収
固定費増加2億円
- ◆ 半導体増収、増益
ARC増収、その他増収(多層材料・その他新材料増収)
半導体市場全般好調
固定費増加2億円
- ◆ 無機増収、増益
スノーテックス増収(一般用途・研磨材増収)
オルガノ・モノマーゾル増収
オイル&ガス材料増収(シェールオイル市場回復)
固定費増加2億円
- ◆ 固定費増加合計6億円
- ◆ 売上高+29億円、営業利益+17億円

2021 1Q実績 <2021/5業績予想比>

- ◆ DP売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ
光IPS上ぶれ(スマホ、非スマホ上ぶれ)、ラビングIPS上ぶれ、VA下ぶれ、TN上ぶれ
- ◆ 半導体売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ
ARC上ぶれ、その他上ぶれ(多層材料・その他新材料上ぶれ)
半導体市場全般好調
固定費下ぶれ3億円(プラス要因)
- ◆ 無機売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ
スノーテックス上ぶれ(一般用途・研磨材上ぶれ)
オルガノ・モノマーゾル上ぶれ
オイル&ガス材料下ぶれ
固定費上ぶれ1億円(マイナス要因)
- ◆ 固定費下ぶれ合計2億円(プラス要因)
- ◆ 売上高+14億円、営業利益+15億円

19

続いて、機能性セグメントの利益の状況です。19 ページをご覧ください。

左側、前年同期比ではありますが、ディスプレイ材料につきましては増収増益です。光 IPS につきましては、スマホ向けも非スマホ向けも好調でございました。ラビング IPS は、光へのトランスファーということで減収。VA は、お客様のところのラインの減少もありましてマイナスでございます。固定費増加が 2 億円ありましたが、それを含めても増収増益というのがディスプレイです。

続いて、半導体ですが、こちらも増収増益。ARC、その他材料ともに増収ということでして、固定費増加 2 億円を上回って、かなりの増益となっております。

無機も同様に増収増益です。スノーテックス、一般用途・研磨材ともに増えてございます。オルガノ・モノマーゾルにつきましても、特にこれといった目立つものはございませんが、全般的な増収です。オイル&ガス材料につきましても、小幅でございますけれども増収がございました。

セグメント全体として、固定費増加 6 億円ございましたが、売上がプラス 29 億円、営業利益はプラス 17 億円でございました。

続いて、業績予想比、右側にまいります。ディスプレイ、売上も利益も上ぶれです。光 IPS、こちらはスマホ向けも上ぶれ、非スマホ向けも上ぶれでございました。ラビング IPS も上ぶれでござい

ます。VAにつきましては、お客様のところのラインの縮小と、ガラス不足によります生産の下振れでマイナスとなっております。

半導体につきましては、売上、利益ともに上ぶれ。ARC、その他製品ともに非常に好調に推移をしてございます。

無機も同様に、売上、利益ともに上ぶれております。スノーテックス、オルガノ・モノマーゾルが上ぶれ。オイル&ガスは若干の下ぶれとなりました。

全体で売上が14億円上ぶれ、利益は15億円上ぶれております。

農業化学品セグメント概況 – (B) 主要製品連結売上高成長率(値引前)

主要製品名 (2020年売上高順)	種類	2021 1Q実績	
		前年同期比	計画比 (21/5作成、非開示)
ラウンドアップ(1)	除草	0%	下ぶれ
フルララネル(2)	動物薬	+45%	上ぶれ
アルテア	除草	-36%	下ぶれ
タルガ	除草	-27%	上ぶれ
グレーシア	殺虫	-77%	下ぶれ
パーミット	除草	+5%	予想通り
ライメイ	殺菌	+55%	予想通り
クインテック	殺菌	400%以上	上ぶれ
ダイセン	殺菌	-	予想通り
農業化学品 セグメント合計	-	-1%	下ぶれ

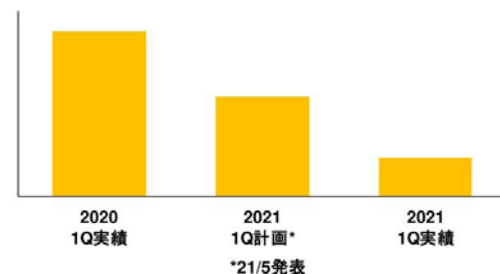
(1) ラウンドアップALは2021年度1Qラウンドアップ売上高全体の36%を占める

(2) 2021年度1Q実績・計画は会計方針の変更影響を含む(ロイヤリティ収入増)(p2、25参照)

◆国内農業販売額第1位 (2018年10月~2019年9月)

⇒2020年1月22日開催 ラウンドアップの現状説明会資料参照
https://www.nissanchem.co.jp/news_release/news/n2020_01_23.pdf

◆グレーシア売上高 2021 1Q実績



22

続いて、農業化学品セグメントにまいります。22 ページをご覧ください。主要製品がございますが、これは値引き前の数字で測っております。

まず、全体ですが、農業化学品、昨年の同期と比べますと、値引き前ではマイナス1%となっております、下振れという結果でございました。

中身を見てまいりますと、ラウンドアップ、0%ということで、これは下ぶれの結果。フルララネルは、前年同期比でプラス45%、これは会計方針の変更によりまして、ロイヤリティが1Qで計上されたためですが、そのロイヤリティ自体につきましては、予想よりも上ぶれております。

アルテアは下ぶれで、前年比ではマイナス 36%。タルガはマイナス 27%ですが上ぶれです。それから、グレーシアはマイナスという数字となっております。それから、業績予想比、パーミットにつきましては予想どおり。ライメイもほぼ予想どおり。クインテックは上ぶれ。ダイセンは予想どおりといった数字となっております。

ここで、グレーシアについて、右側に棒グラフもございますが、簡単にご説明をしたいと思います。春先、非常に好天が続きまして、春キャベツの収穫が早めに始まった結果、防除抜きで終わっております。加えて、葉物相場全般が下落をしているということで、低価格な殺虫剤へシフトしてしまったということで、今、グレーシアの在庫消化が予想どおりには進んでいない状況がございます。

農業化学品セグメント概況 – (C)直近の農薬製品買収

◆クインテック(キノキシフェン)

- ・2019年11月米国コルテバ社より事業を買収
- ・2019年12月販売開始
- ・クインテック = キノキシフェン(有効成分)を含む製品群中の主製品
- ・果樹、野菜用殺菌剤、主な市場は米国
- ・果樹(特にブドウ)や野菜のうどんこ病(カビの1種)の発病予防に非常に効果的

◆ダイセン(マンゼブ)

- ・2020年12月米国コルテバ社より日本・韓国事業を買収
- ・2021年1月国内販売開始
- ・ダイセン = マンゼブ(有効成分)を含む製品群中の主製品
- ・果樹(特にりんご、かんきつ)・野菜用保護殺菌剤、耐雨性に優れる
- ・監査後無形固定資産の償却期間は、資産の種類別に5年・16年(定額法)(加重平均15.6年)で確定(監査前は5年で仮計算)

年度	営業利益	償却前営業利益
2020	3	4
2021	7	11
2022-26計	36	53

23

続きまして、23 ページ。これは5月の資料のコピーでございますけれども、クインテックとダイセンの買収の内容がございます。

農業化学品セグメント概況 – (D-1) フルララネル

◆フルララネル (Fluralaner)

- BRAVECTO・EXZOLTの有効成分として、当社がMSD社*に供給
- BRAVECTOシリーズ・EXZOLTは現在100か国以上で販売中
- これまでのペット用外部寄生虫薬とは異なる新たな作用機序を有している
- 化合物特許
・2025年3月に終了するが、多数の国で延長制度あり
・UK、ドイツ、フランス等一部欧州諸国では、2029年2月まで延長済み、米国は延長申請中

*MSD:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門の
MSD Animal Health 社の略称

◆ブラベクト (BRAVECTO)

- MSD社が開発したペット用外部寄生虫薬で、犬・猫のノミ、マダニの主要種に対し即効性に優れる
- 通常1か月毎に投薬する既存製品より殺虫効果の持続性が長く、12週間**にわたって持続する
- 犬向けチュアブルタブレット(経口投与製剤)
2014年4月欧州、以降米国、日本等で上市、2019年7月中国上市
2020年7月1か月剤(子犬向け)米国上市
- 犬、猫向けスポットオン製品(経皮投与製剤)
(猫)2016年7月欧州、以降米国、日本等上市
(犬)2017年1月米国・欧州等上市、2021年1月日本上市

**クリイロコイタマダニは8週間

◆ブラベクトプラス (BRAVECTO Plus)

- 猫向け外内部寄生虫スポットオン合剤
2018年7月欧州、以降米国等上市
2021年1月日本上市

◆エグゾルト (EXZOLT)

- 鶏向けワクモ駆除剤(飲水投与)
2017年9月欧州、以降韓国、中東等上市
2021年7月日本上市

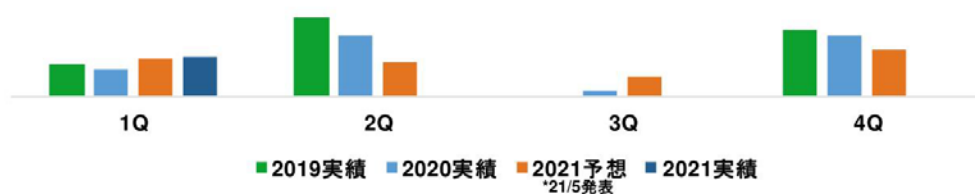


農業化学品セグメント概況 – (D-2) フルララネル

◆当社売上高構成

MSD社へのフルララネル販売、MSD社からのランニングロイヤリティ(RR)収入

◆2019～2021年四半期別売上高推移(ロイヤリティ収入含む)



◆2021年度よりRR売上高計上基準変更

(2020年度まで)MSD売上高1-6月分:8月計上、同7-12月分:2月計上

(2021年度より)MSD売上高1-3月分:5月計上、同4-6月分:8月計上、
同7-9月分:11月計上、同10-12月分:2月計上

25

25 ページ、フルララネルの売上の四半期ごとの構成がございますが、ご覧のとおり、1Q はロイヤリティの計上によりまして、昨年及び予想よりも少し大きな数字となっております。

農業化学品セグメント概況 – (E) 収益動向(1)

<農業化学品収益動向>

	(億円)			2021予想 (21/5発表)
	2020実績 (A)	2021実績 (B)	増減 (B) - (A)	
	1Q	1Q	1Q	1Q
売上高	146	134	-12	145
営業利益	40	41	+1	38

(1) 2021実績・予想は会計方針の変更影響を含む(フルララネルロイヤリティ収入増・農業売上値引コスト増)(p2参照)

2021 1Q実績

<前年同期比>

- ◆ 増収:フルララネル(会計方針の変更によるロイヤリティ計上)、ダイセン(20年4Q販売開始)、クインテック(輸出)、ライメイ(輸出)、パーミット(輸出)
- ◆ 横ばい:ラウンドアップ(ML減収、AL増収)
- ◆ 減収:グレーシア(国内・輸出)、アルテア(国内)、タルガ(輸出)
- ◆ 固定費増加1億円
- ◆ 在庫変動影響+3億円(プラス要因)
- ◆ 売上高-12億円、営業利益+1億円
(会計方針の変更による売上高増加+12億円、営業利益増加+12億円)

2021 1Q実績

<2021/5業績予想比>

- ◆ 売上高上ぶれ:フルララネル(ロイヤリティ収入上ぶれ)、クインテック(輸出)、タルガ(輸出)
- ◆ 売上高予想通り:パーミット、ライメイ、ダイセン
- ◆ 売上高下ぶれ:ラウンドアップ(ML)、グレーシア(国内)、アルテア(国内)
- ◆ 固定費下ぶれ3億円(プラス要因)
- ◆ 在庫変動影響+4億円(プラス要因)
- ◆ 売上高-11億円、営業利益+3億円

26

続いて、農業化学品セグメントの収益動向です。26 ページをご覧ください。

増収、横ばい、減収の、それぞれの製品がございます。増収の製品ですが、まずフルララネル。こちらは先ほどのとおり、1Qにロイヤリティを計上したということです。それから、ダイセンが昨年度の4Q販売開始ですので、YoYではこれは昨年度はゼロですので、売上がそのまま増収です。

クインテックですけれども、20年度の下期にコルテバの生産控えがございまして、これが21年度の1Qに反動として増えております。ライメイにつきましては、インド、オーストラリアで好調という数字です。パーミットにつきましては、インド向けが前倒しで入っている状況です。

それから、ラウンドアップにつきましては、マックスロードは減収でございすけれども、ALは順調に増収という結果でございす。ラウンドアップにつきましては、やはり緊急事態宣言ということで、お客様の動きが小さかったということと、早く梅雨が始まったといったようなことが影響してございす。

それから、減収のほう、グレーシア、先ほど申し上げましたとおり。それから、アルテアは2019年度から見ますと、2019年度、原料不足で生産が減ったのですが、2020年度、その反動で大きく増えました。2021年度は、それが元に戻って、通常に戻ったような状況で、前年度比では減収となっております。タルガにつきましては、欧州の菜種需要が減っているというところでありす。

このセグメントは固定費の増加が1億円ございましたが、在庫変動要因で3億円のプラスがございます。その結果としまして、売上ではマイナス12億円、営業利益ではプラス1億円という数字です。ただし、この中には会計方針の変更によります売上高のネットでの増加と、営業利益のネットでの増加がそれぞれ12億円ございますので、もしこれがなければ、営業利益はマイナス11億円という状況でございました。

続いて、右側の業績予想比です。まず、売上高上ぶれ製品について。フルララネル、これは先ほどのとおりロイヤリティの上ぶれでありまして、メルクのコンパニオンアニマルの売上も1Q好調でしたので、それに連動するような形でございます。クインテックも上ぶれでして、それは先ほどの生産の20年度から今年度へのずれでございます。タルガの上ぶれ、こちらは一部のヨーロッパでの上ぶれが効いております。

売上高の下ぶれ。ラウンドアップのマックスロード、先ほどのとおり、緊急事態宣言影響と梅雨の影響でございます。それから、グレースは既にご説明しております。アルテアにつきましては、予算の時点よりも少し20年度の4Qに前倒しの出荷がございましたので、その分が下ぶれとなっております。

予想比では固定費が3億円、主としてR&Dで下ぶれまして、それに在庫変動で4億円のプラス、出荷の下ぶれがありまして、在庫のところでプラスが入っております。従って、売上は11億円下ぶれましたが、利益は3億円上ぶれたという結果でございました。

医薬品セグメント概況 – (B) 2021 1Q 主要製品売上高成長率、収益動向

<主要製品売上高成長率>

	2021 1Q実績	
	前年同期比	計画比 (21/5作成、非開示)
リバロ	-18%	上ぶれ
ファインテック	-42%	上ぶれ
医薬品 セグメント合計	-29%	上ぶれ

<医薬品収益動向> (1)

	2020実績 (A)	2021実績 (B)	増減 (B) - (A)	2021予想 (21/5発表)
	1Q	1Q	1Q	1Q
売上高	15.0	10.7	-4.3	8.9
創薬	7.4	6.3	-1.1	4.9
FT	7.6	4.4	-3.2	4.0
営業利益	-0.7	-1.9	-1.2	-3.3
創薬	-2.2	-2.9	-0.7	-4.0
FT	1.5	1.0	-0.5	0.7

(1) p9,10,31,32,33,34では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

2021 1Q実績 <前年同期比>

- (創薬) ◆ リバロ減収(国内増収、輸出減収)
◆ 売上高-1.1億円、営業利益-0.7億円
- (FT) ◆ 減収
◆ 棚卸評価損+1億円
(20年度評価損計上・21年度計上なし、プラス要因)
◆ 売上高-3.2億円、営業利益-0.5億円
- (合計) ◆ 売上高-4.3億円、営業利益-1.2億円

2021 1Q実績 <2021/5業績予想比>

- (創薬) ◆ リバロ売上高上ぶれ(国内上ぶれ、輸出上ぶれ)
◆ 売上高+1.4億円、営業利益+1.1億円
- (FT) ◆ 売上高上ぶれ
◆ 売上高+0.4億円、営業利益+0.3億円
- (合計) ◆ 売上高+1.8億円、営業利益+1.4億円

28

続いて、医薬品にまいります。28 ページをご覧ください。

まず、リバロですけれども、前年同期比でマイナス 18%の減収。これは減収ですが、予想を上回っております。ファインテック、マイナス 42%ですが、これももともと予想していたより減収幅が小さかったということで上ぶれであります。

このページの左、前年同期比の売上と利益の状況ですが、創薬につきましては国内が増収、それから輸出が減収で、リバロ自体は減収でして、売上がマイナス 1.1 億円、利益がマイナス 0.7 億円という前年比です。

ファインテックですけれども、減収でしたが、昨年ございました棚卸評価損がなくなりましたので、これがプラス 1 億円です。従って、売上がマイナス 3.2 億円、利益でマイナス 0.5 億円という結果です。

合計しますと、売上がマイナス 4.3 億円、利益がマイナス 1.2 億円です。

続いて、予想比です。右側にまいります。創薬部門、内外ともにリバロが上ぶれまして、売上がプラス 1.4 億円、利益がプラス 1.1 億円です。ファインテックも上ぶれておりまして、売上でプラス 0.4 億円、利益でプラス 0.3 億円です。

合計では売上でプラス 1.8 億円、利益で 1.4 億円となりました。

ESGへの取り組み

◆ ESGインデックス等

- 2017年～ 健康経営優良法人ホワイト500に5年連続認定
 - 2020年6月 S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数の構成銘柄に2年連続で選定
 - 2020年8月 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)提言への賛同を表明
 - 2020年10月 「統合レポート2020」を発行 (https://www.nissanchem.co.jp/ir_info/archive/ar/ar2020.pdf)
 - 2020年11月 Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index の構成銘柄に3年連続選定
 - 2020年12月 CDP 水セキュリティにおいて「Aリスト」に2年連続選定
 - 2021年1月 温室効果ガス(GHG)排出削減長期目標を設定
- 中期経営計画Vista2021(2016-2021年度)目標:
2021年度までに、2011年度比 20%削減 → 2019年度の段階で、2011年度比 27%削減を達成済
- 新長期目標:2030年度までに、2018年度比 30%削減
温室効果ガス(GHG)排出量(CO2換算、千トン)

年度	2011	2018	2019	2021	2030
中期経営計画Vista2021	-	-	-	359	-
実績	448	363	327	-	-
新長期目標	-	-	-	-	254
大手総合化学5社平均	-	-	5,069	-	-

- 2021年4月 ダイバーシティステートメントおよびダイバーシティビジョンを設定
- 2021年7月 FTSE4Good Index SeriesおよびFTSE Blossom Japan Indexの構成銘柄に2年連続選定
- 2022年6月(予定) メラミン停止によるGHG削減(26千トン、2018年度実績の約7%に相当)

◆ ガバナンス

- 2019年4月 指名・報酬諮問委員会設置(取締役会の任意の諮問機関)
 - 2019年6月 取締役等を対象に業績連動型株式報酬制度導入(株式給付信託)
 - 2021年6月 女性取締役1名選任(選任後、取締役は計10名、うち社外4名)
- ◆ 東京証券取引所「企業価値向上表彰」表彰候補50社に選定
 - 2020年1月 2019年度「企業価値向上表彰」の表彰候補として、上場企業約3,600社中50社に2年連続選定(2020年度東証は表彰見送り)
 - ◆ ディスクロージャー優良企業を受賞
 - 2020年10月 証券アナリスト協会「ディスクロージャー優良企業選定」にて化学・繊維部門の第1位に初選定

29

続いて、29 ページ、ESG の取り組みです。ここでは赤字のところを3点申し上げます。

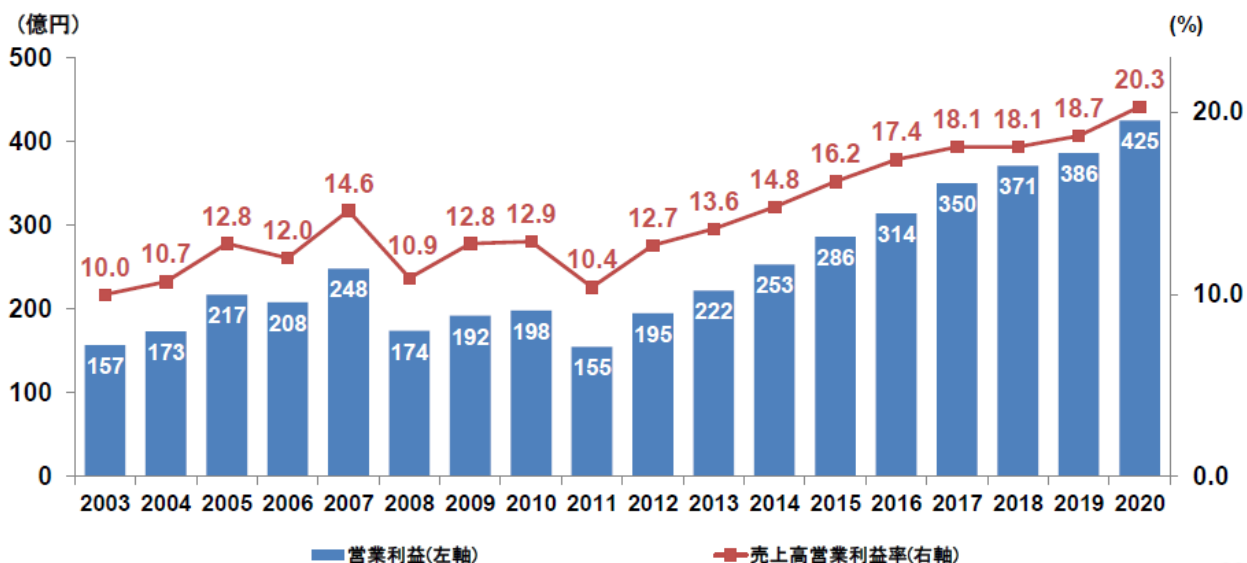
まず、21年の7月、FTSE4Good Index Series と FTSE Blossom Japan Index に2年連続で選定をされております。

それから、先ほど申し上げましたとおり、22年6月にはメラミン停止ということで、2万6,000トンのCO2の削減が見込まれております。

ガバナンスのところでは、6月に女性取締役を1名選任しております。結果として、取締役は10名ですが、社外取締役が4名ということとなりました。

当社の特徴- (A) 売上高営業利益率

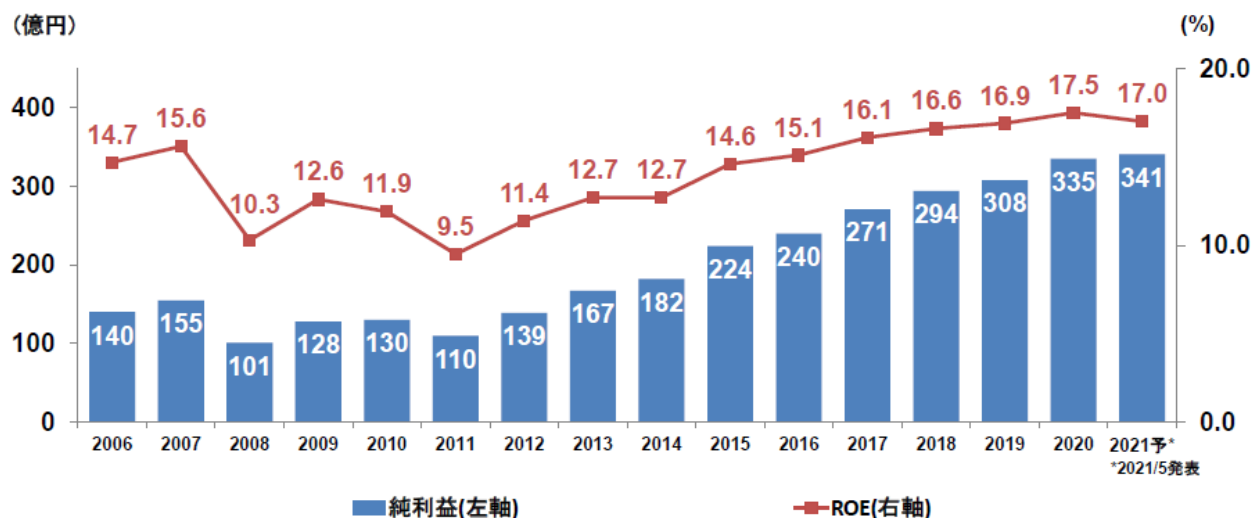
- ◆ 長期にわたり安定的かつ高い売上高営業利益率を維持
(2003年度以降18年連続10%以上)



39

当社の特徴- (B) ROE

- ◆ ROEを従前より最重要の経営指標とし、高水準を維持
- ◆ 中期経営計画(2019-2021年度)では16%以上維持が目標
- ◆ 2020年度実績は17.5%

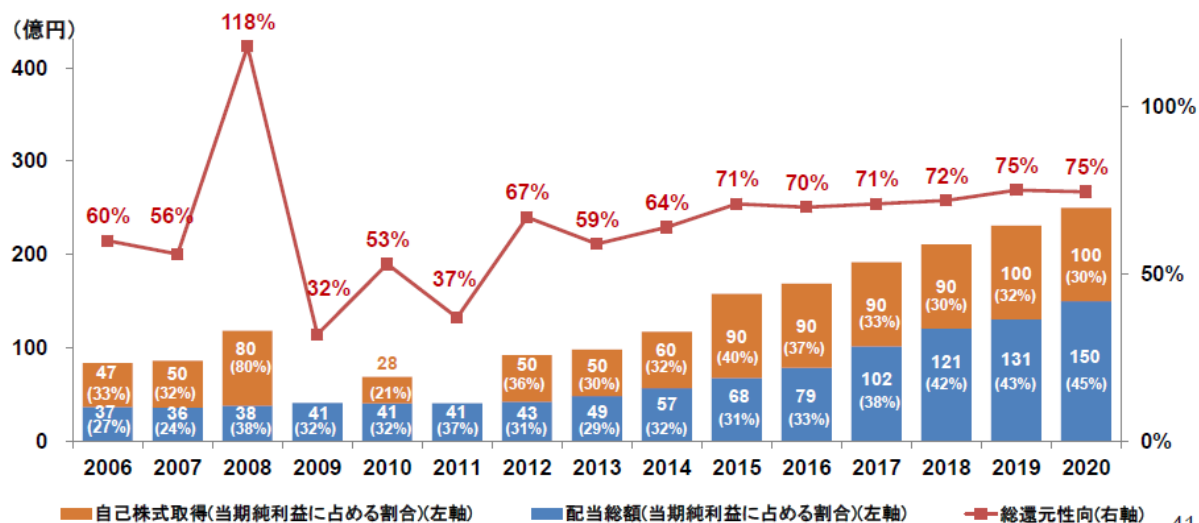


*2021/5発表

40

当社の特徴- (C)株主還元 (総還元性向)

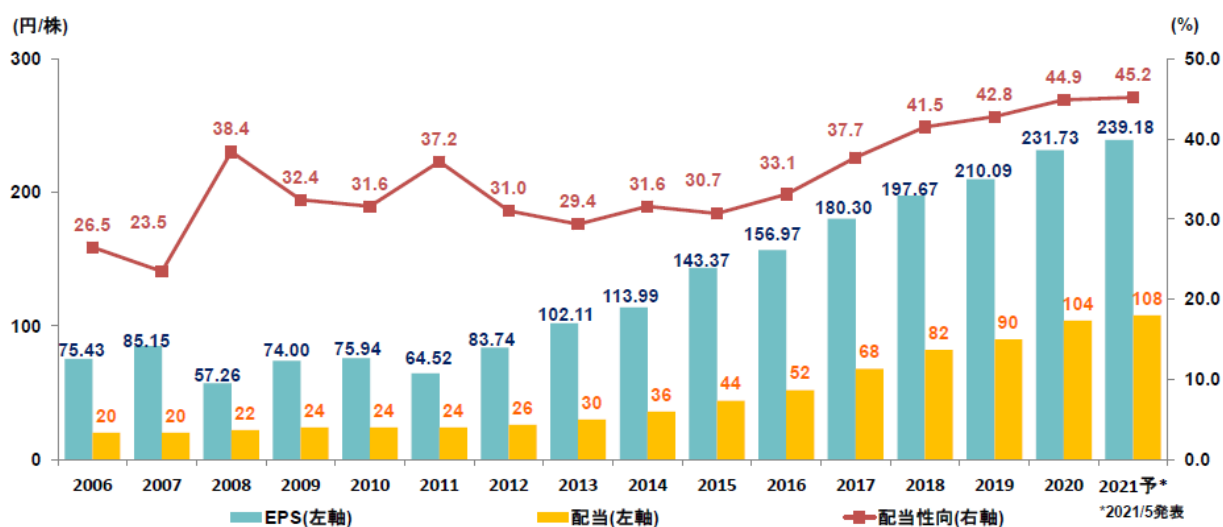
- ◆ 配当と自己株式取得による株主の皆さまへの積極的な利益還元を実施
- ◆ 2016年度以降は、総還元性向70%維持を目標とし、2016-2018年度達成
- ◆ 中期経営計画(2019-2021年度)では、2019年度72.5%、2020年度以降75%が目標
- ◆ 2020年度実績は74.6%



41

当社の特徴- (D)株主還元 (配当性向)

- ◆ 2015年度30.7%から段階的に引き上げ
- ◆ 中計(2019-2021年度)では2019年度42.5%、2020年度以降45%が目標
- ◆ 2020年度実績は44.9%
- ◆ 2012年度以降2020年度まで9年連続増配



42

それから、その後は四半期ごとの推移等でございますが、39ページから当社の特徴ということで、表題だけ申し上げますと、売上高営業利益率、ROE、株主還元と書いてございます。

当社の特徴－(E)株主還元(自己株式取得)

- ◆ ROE向上を目的に2006年度より開始、2006-20年度取得総額925億円、4,271万株(取得開始前発行済株式の22.8%)
- ◆ 2006-20年度取得株はすべて消却済

2006-2020年度 自己株式取得実績

- (1) 単元未満株式買取、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得(166千株)を除く
 (2) 単元未満株式、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得(166千株)を含む

年度	2006	2007	2008	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	合計
取得数(千株)(1)	3,500	3,399	7,355	2,167	6,372	3,263	2,764	3,333	2,621	2,292	1,682	2,138	1,829	42,715
取得価額(億円)(1)	47	50	80	28	50	50	60	90	90	90	90	100	100	925
自己株式消却数(千株)	3,000	3,635	7,000	3,000	6,000	4,000	3,000	2,000	2,000	3,000	2,000	3,000	1,000	42,635
発行済株式数(百万株)	185	181	174	171	165	161	158	156	154	151	149	146	145	-
期末自己株式数(千株)(2)	1,367	1,233	1,660	885	1,258	522	287	1,621	2,242	1,535	1,218	523	1,352	-
株主総還元性向 (配当+自己株式取得)(%)	60	56	118	53	67	59	64	71	70	71	72	75	75	-

*2009年度、2011年度は自己株式取得なし

◆ 取得

年度	2018			2019			2020			2021
	上	下	計	上	下	計	上	下	計	5月17日～7月21日
自己株式取得総数(千株)(1)	976	706	1,682	1,270	868	2,138	1,334	495	1,829	1,262
取得価額総額(億円)(1)	50	40	90	60	40	100	70	30	100	70
自己株式消却総数(千株)	2,000	0	2,000	2,000	1,000	3,000	1,000	0	1,000	1,000(5月10日実行)

◆ キャッシュマネジメント(単体ベース)

目標現預金残高水準

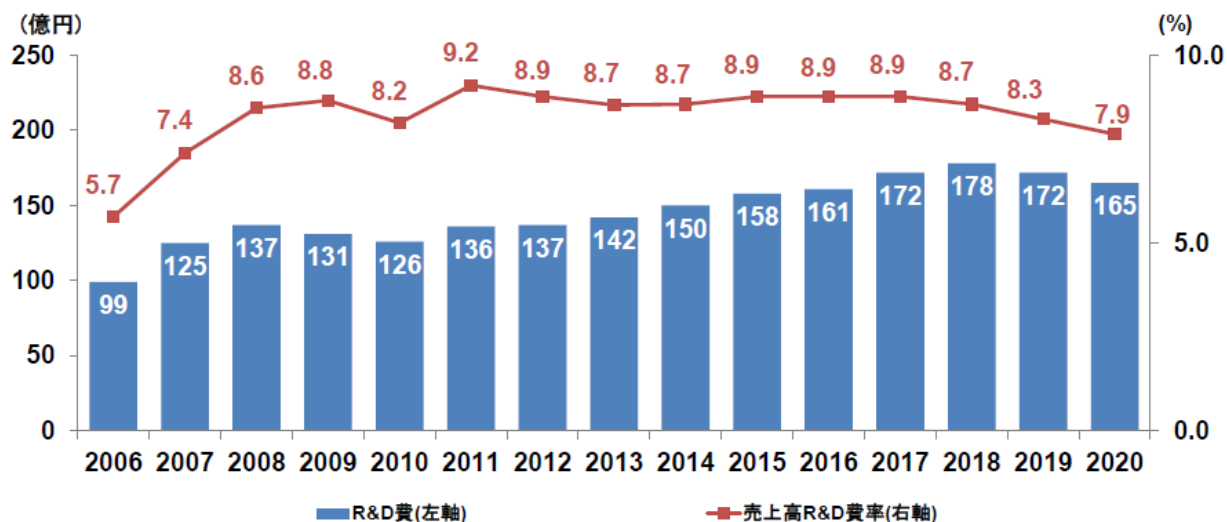
$$= \text{必要下限額} + \text{流動性リスク対応} [1/3 \times (\text{長期借入金年間返済予定額} + \text{短期借入残})] + \text{偶発リスク対応}$$

43

43 ページ、自己株式の取得のところですが、足元、21年の5月17日から7月21日で、70億円の自己株取得が終了しております。126万2,000株でした。それから、5月10日に100万株の自己株の消却を実行してございます。

当社の特徴－(F-1)研究開発

- ◆独自の革新的技術で社会の要請に応える未来創造企業
- ◆R&Dを重視し、売上高R&D費率は8-9%と高水準を維持
- ◆総合職の約40%はR&D要員

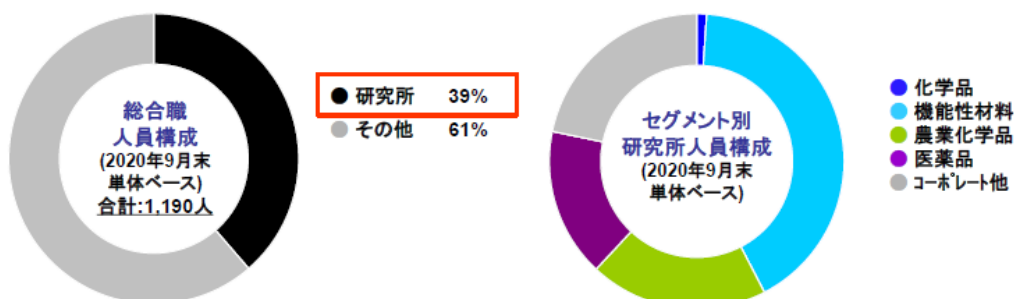


44

当社の特徴－(F-2)研究開発

◆セグメント別研究開発費

セグメント	2020年度実績				
	売上高 (億円)	営業利益 (億円)	売上高 営業利益率(%)	R&D費 (億円)	売上高 R&D費率(%)
化学品	319	15	4.7%	3	0.9%
機能性材料	716	224	31.3%	70	9.8%
農業化学品	638	182	28.5%	44	6.9%
医薬品	67	4	6.0%	24	35.8%
コーポレート他	-	-	-	24	-
その他共通合計	2,091	425	20.3%	165	7.9%



45

決算の説明につきましては、以上でございます。

質疑応答

<質問者 1>

Q: まず、農業化学品について。資料の 26 ページの左下で、実質売上高が 24 億円減で営業利益が 11 億円の減ということで。ここは減収になっている 3 製品に加えて、フルララネルの原薬の売上減が影響して、実質利益も落ちましたと。ただ、会計方針の変更で、特にロイヤリティのプラスが大きかったの、見た目の利益は増えています。こういう説明でいいのかというのを教えてください。

A: 売上・利益の見方について、ご指摘のとおりです。

Q: 分かりました。今の農薬の環境については、国内外どう見られているのでしょうか。

A: まず、海外の農薬市場の状況でございますが、ご存じのとおり、米州を中心としまして穀物相場が非常に好況の様相を呈しているということで、特に EU 向け、あるいは米州向けの農薬市場は拡大していると認識しております。この傾向はしばらく続くものだと、われわれは予測をしております。一方、国内に目を移しますと、コロナの影響が色濃く出ております。外食産業向け、あるいはイベント向けの高価格食材需要が非常に低迷していることもありまして、特に野菜農家と、あと果樹農家の生産意欲がかなり低下している状況です。市場全体としましては、拡大ではなくて微妙に減少している状況がしばらく続くものだと認識しております。

Q: 分かりました。フルララネルについては、在庫調整の早期解消とか、そういった動きは依然としてないのか、確認させてください。

A: 現状では、われわれは足元、メルク社の売上が好調であることは理解しておりますけれども、特に在庫調整の新たな動きについては聞いてはおりません。

Q: ありがとうございます。農業化学品セグメントは、年間予想に対しては現状計画線上ということでしょうか。

A: グレーシアに関しては、なかなか年間を通して挽回するのは厳しいかもしれないですね。

Q: それぐらいで、ただ 1Q はセグメント全体では上ぶれているので、という感じですかね。

A: そうですね。

Q：分かりました。次に、機能性材料のサンエバーのところですが、かなり光 IPS が好調に推移していますが、今の半導体不足のスマホへの影響とか、7-9 月に向けたサンエバーの動き、どう見られているのか、この辺について簡単にお願いできますか。

A：光 IPS につきましては、引き続き IT 向け需要好調で、その中でもさらに光 IPS の比率が高まってきている中で、順調に推移しております。現時点で IC 不足という中での生産影響は、われわれのほうには耳に入ってきていない状況でございます。

<質問者 2>

Q：まず、農業化学品のところですが、今回の会計方針の変更による売上高の 12 億円のプラスと営業利益のプラス 12 億円について、可能であれば、フルララネルの分と、あと農薬の分でこういった形で動いたのかを教えてくださいませんか。

A：明細は答えできないのですが、要するにプラス要因がフルララネルのロイヤリティの計上ですね。マイナス要因が、一般農薬の値引きの計上です。従来に比べて四半期ごとにきちんと分配をします。従来はキャッシュベースで偏っていたのですが、これをきちんと売上に応じて計上するという点です。このプラスマイナス要因のネットが合計としてプラス 12 億円だったということです。

Q：そうしますと、フルララネルのロイヤリティ分は、単純に言えば 12 億円以上プラス要因として今回入っているということでしょうか。

A：そうです。

Q：フルララネルですが、1Q の原薬の販売に関しては伸びたのでしょうか。

A：YoY で原薬の出荷は落ちて、ロイヤリティの計上がプラスに効いています。

Q：分かりました。あと、グレースは今年度、通期予想でプラス 20%ということでしたが、1Q、出足としてはちょっと厳しいのかなという感じですが、この辺り、2Q 以降の見方を教えてくださいませんか。

A：グレースに関しまして、先ほど説明があったように、特に国内の流通在庫が非常にはげが悪い状況が続いています。それから、ちょうど秋作前の非常に重要な時期に、今回の日本全国を大雨が覆ったということで、この影響が、秋作の葉物野菜に対して、恐らく影響が悪いほうに出るのかなと予想しております。

その結果、なかなか今回目標としておりました数量、金額には少し達成が難しいかなという状況でございます。

Q：分かりました。それと、あと私からも一つです。今回、メラミンの生産停止ということですが、12 ページ、マテリアルフローのところ、今回、メラミンをやめることによってバランスが崩れてこないのかなということで。

例えばシアヌル酸をこの間増強していますけれども、これはある程度もうメラミンの生産停止を考慮してのものなのか。それともまた、別途そういう形で、メラミン向けがなくなることを他でカバーするような形になるのか、その辺り、バランスのところを教えてください。

A：12 ページのマテリアルフローにありますとおり、尿素の使用先は、ここでは大ざっぱに、アドブルー、メラミン、シアヌル酸となっております。先ほどありました、シアヌル酸の使用量が大幅に増加したことは間違いなくございます。

一方で、アドブルー、こういったものについても、今、ディーゼルトラックの、いわゆる排ガスの浄化用途等も伸びてきているということで、この辺は総合的に尿素の吸収先が膨らんできたということが今回、判断できる状況になってきたということになると思います。

Q：尿素を外販するという可能性はありますか。

A：もちろん、尿素につきましても販売先について拡販をしていこうという動きがあるのも事実です。

Q：分かりました。基本的にはメラミンをやめてもバランスは崩れないという理解で良さそうでしょうか。

A：はい、もちろんです。そちらがきちっとバランスしていくということで、今回の判断をさせていただいたという、その背景がございます。

<質問者 3>

Q：まず 1 問目は、半導体材料が非常に伸びてきていますが、この背景を教えてくださいませんか。

A：まず、ARC ですけれども、地域としては全体的に伸びておりますが、韓国と中国が特に強かったのですが。

その他半導体材料におきましては、多層材料が韓国でシェアを伸ばせたことと、あとは台湾を含め全体的に伸びております。

Q：EUV 関連の伸び率は、いかがでしょうか。

A：EUV 材料は、前年同期比ですと約 3 倍になっております。

Q：顧客の歩留まりがよくなったり、使いこなしがうまくなったりして、使用原単位が落ちているといったような動きはなさそうですね。

A：そうですね、はい。そういった状況はございません。

Q：分かりました。ありがとうございます。2 問目は、固定費の動きに関してですが。1Q 決算で、機能性材料が計画比で 2 億円消化が少なく、農業化学が 3 億円少ないというお話だったかと思えます。中身としまして、活動経費だとかが減っているということでもいいのか。デルタ株だとか、こういった世の中の状況が続きますと、2Q 以降も固定費は計画に対して下ぶれていきそうなのか。この辺りのご感触を教えてくださいませんか。

宮崎：両セグメントとも、試験費が小さくなっているという状況ですね。ですから、2Q 以降も今の状況ですと動きが取れないので、そういった面では固定費が小さくなる可能性が高いと思えます。

< 質問者 4 >

Q：まず機能性材料について、1Q 実績は営業利益率が非常に高いわけですが、この背景について、もう少し詳細をいただけますでしょうか。また、この営業利益率の水準の継続性について、製品ミックスの観点や、固定費の出方の観点で、今後どう考えておけばいいのか教えていただければ幸いです。

A：まず、光 IPS のウエートが高くなっているというところですね。他の TN なり、ラビング IPS なりのウエートが下がっているところで、ご承知のとおり、光 IPS のほうが利益性は高いので、この影響が全体に大きな影響を与えているというところですね。

それから、半導体は、基本的には数量の増がそのまま利益の増につながっているというところでした。新しいグレードのものが出ることによって、古いグレードと入れ替わっていきますので、価格も比較的維持できているのが大きな要因だと思います。これからも利益率的には高水準で推移していくと思っております。

Q：なるほど。分かりました。例えば足元の需要とか、引き合いの状況を踏まえて、1Q から 2Q にかけて増益できそうなご感触があるとか、そういったところはいかがでしょう。

A：それは引き続き強い需要が、両方とも、ディスプレイも半導体もございまして、2Q も強いかなと思っています。

Q：分かりました。ありがとうございます。2 点目は、フルララネルの在庫調整のお話ですけれども。早期での在庫調整完了の可能性に関して、今のところ新しい動きはないということですが、例えば、コロナ以降に新たに飼われたペットが、室内用の小型ペットが多いので、実はフルララネルの消費量が少ないとか、あるいは、予定していたブラベクトの内外部寄生虫薬の新製品のローンチタイミングが、もともと想定していたところから遅れている可能性だとか。何かその辺り、コメントをいただける点、限られているかもしれませんが、いかがでしょうか。

A：犬の大きさについては、われわれは、なかなかそこまでは分からないという状況ですね。

それから、新製品開発の状況については、メルクのほうでは順調に開発をしていると聞いております。

Q：分かりました。ちなみに、フルララネルの生産のリードタイムはどれぐらいでしょうか。メルクから受注を受けて、出荷できるまでのリードタイムがどれぐらいなのか。それから、急に受注が増えたときに、フレキシブルに生産を拡大できるものなのでしょうか。

A：すみません。生産のリードタイムは、ちょっと今、答えられないのですけれども。生産のフレキシビリティについては、これは製造工場が、自社工場と、それからあと外注で 2 カ所持っておりますので、こちらはかなりフレキシブルに、増えるということがあれば対応できる状況です。

Q：なるほど。そういう意味では、メルク側の立場に立って考えると、前もって早い段階から在庫調整が早めに終わりそうだとすることを御社に対して頭出しする必要性というのは、実はあまりなかったりするのでしょうか。

A：多分そうだと思います。

以上